

公的医療機関等 2025 プランについて（地域医療構想関係部分抜粋）

藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院

【自施設の現状】（P5）

<取り組み事項>

1. 常に安全で患者満足度の高い医療の提供

平成 28 年度において、一部の病棟において耐震基準が満たないことから新棟建設を計画して竣工に至った。新棟建設によりエントランスの拡張、外来・病棟診療機能の充実、救急外来、特定集中治療室、検査部門、リハビリテーション部門、防災センター、コンビニエンスストアなど施設整備を行うことで診療機能の向上と患者アメニティの改善を図り、地域の中核病院としての体制を整備した。さらに新棟建設計画と並行して ICT を活用した地域医療ネットワークの構築、血管造影装置の増設、病院機能評価（3rd G ver1.1）受審、NPO 法人卒後臨床研修評価機構による第三者評価受審など、医療機器の整備、病院機能改善、教育にも取り組んできた。

2. 地域医療連携強化・充実、地域への貢献

平成 29 年度、目標にしてきた地域医療支援病院の承認を得た。今後も地域の中核病院として、近隣診療所等との連携を強化して地域医療への貢献を図る。地域住民への貢献としては医師や看護師などコメディカルによる住民に対しての健康講演会を開催し、地域住民の健康に対する意識向上を図る。

<診療実績>

届出入院基本料：7 対 1 入院基本料

平均在院日数：9.7 日（平成 28 年度）

病床稼働率：77.9%（平成 28 年度）

【自施設の課題】（P5）

医療機器も整備し、より多くの救急患者受け入れを図り、急性期病院としての体制を整備する。県内で 2 病院が承認される予定であるアレルギーセンター設置等の体制整備を推進していく。また、患者サービスの向上においては、増改築で複雑化している病院内の場所をわかりやすくするため、院内サイン工事を計画する。

【地域において今後担うべき役割】（P6）

断らない総合医療を基盤とした地域と共生する急性期病院として地域医療に貢献していく。

【今後持つべき病床機能】（P6）

回復期機能を提供する病棟の設置について検討する。

<今後の方針>（P7）

	現在 （平成28年度病床機能報告）		将来 （2025年度）
高度急性期	190	→	190
急性期	180		180
回復期			
慢性期			
（合計）			

【その他の数値目標】（P8）

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率：90%
- ・ 手術室稼働率：80%
- ・ 紹介率：60%
- ・ 逆紹介率：80%

経営に関する項目

- ・ 人件費率：48%
- ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合 0.05%